

パースの描き方ポイント

① 目的(何を伝える為か)

○空間の様子

- ・単純に立体化。
(床・壁・天井・開口・家具配置など)
- ・部屋の中の様子と、窓の外の景色。
- ・隣の部屋、外部、等との関係やつながり。

○インテリア(基本)

- ・ポイントとなる造作や仕上げ材。
- ・家具、カーテン、照明器具などの大まかなテイスト表現。

○インテリア(詳細)

- ・詳細設計(提案)にもとづいた、各部の表現。
(仕上げ・造作・照明器具・家具・カーテン)
- ・必要に応じ、雰囲気をも高める小物。

② どのくらいの時間をかけるか

○スピーディ(10分未満)

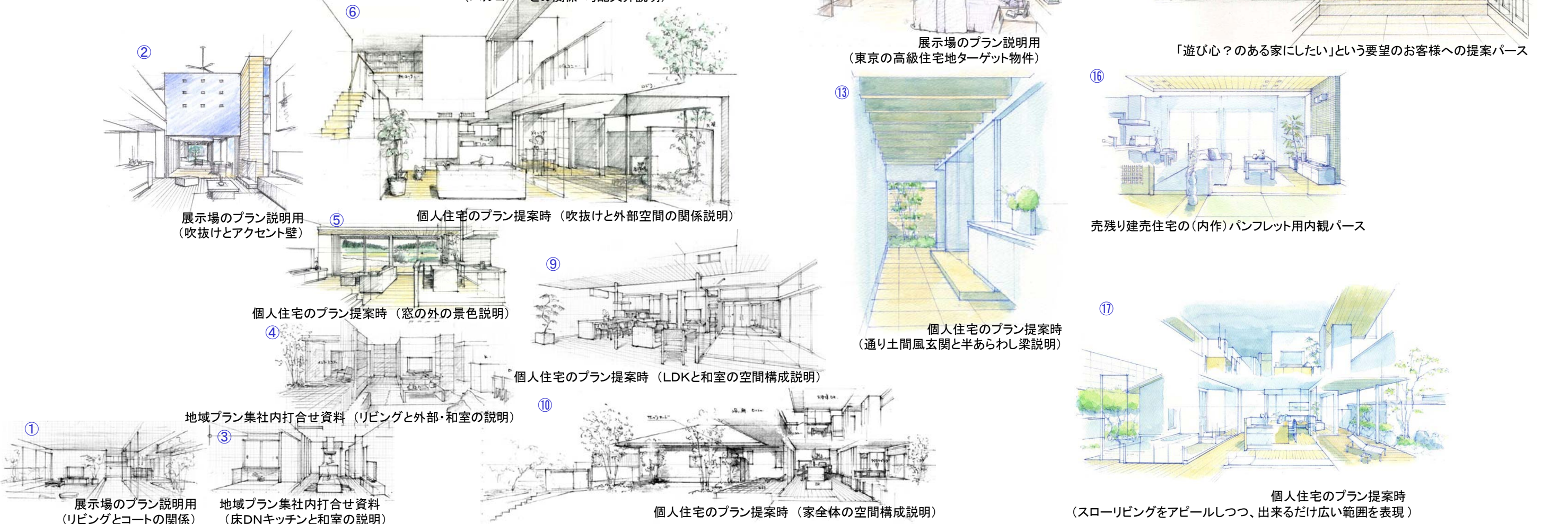
- ・プランを手描きした流れで、ササっと。
- ・小さく描くと速い(プランニング用紙の一部分)。
- ・空間の様子メイン。

○レギュラー(1時間前後)

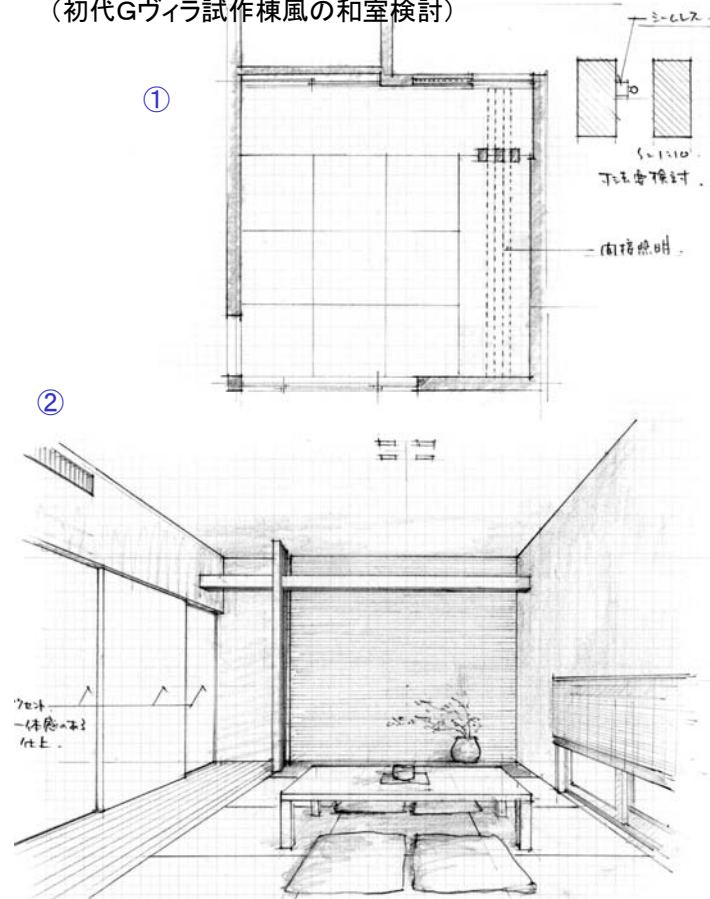
- ・目的に応じて、意図を込めた表現。
- ・A4用紙に1面が目安。
- ・着色は必要に応じて。(部分でもOK)
- ・太い鉛筆やペン、定規を使うとスピードup。

○ハイグレード(2時間以上)

- ・こだわりパース。
(お客様の車や、インテリアをしっかり表現)
- ・細部が描き込める筆記用具にて。
- ・お客様向けなら着色必須。

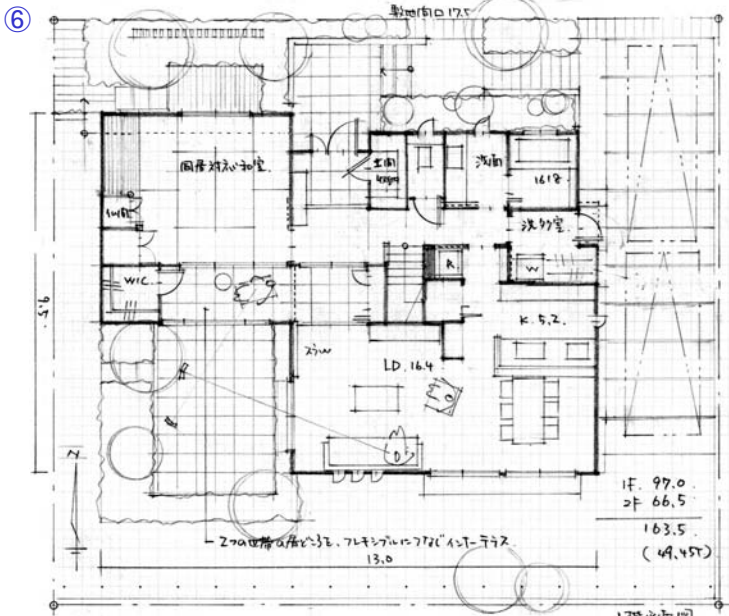
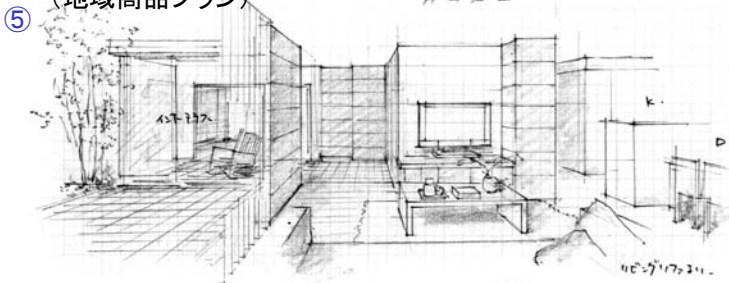


展示場の実施設計時
(初代Gヴィラ試作棟風の和室検討)



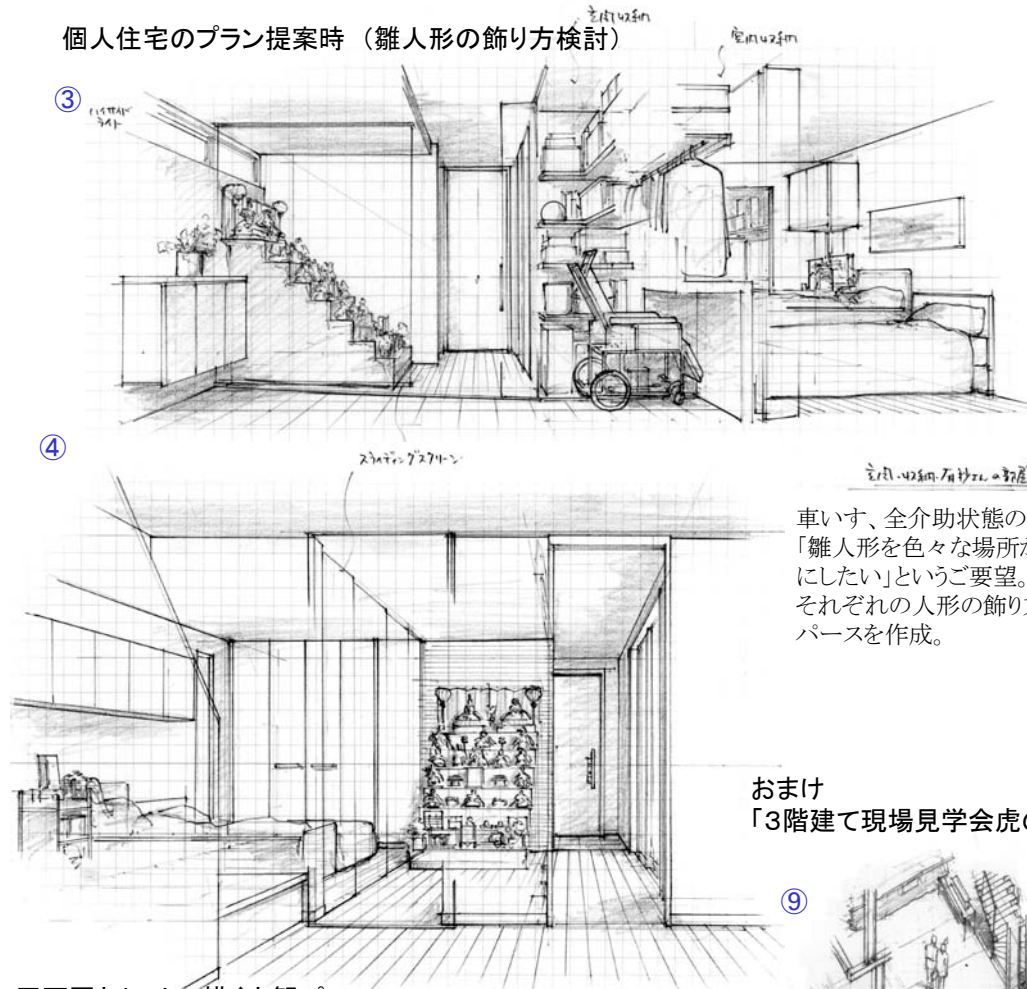
この様に、一枚の用紙に平面・パース・詳細など描いて検討

平面図とセットで描く内観パース
(地域商品プラン)



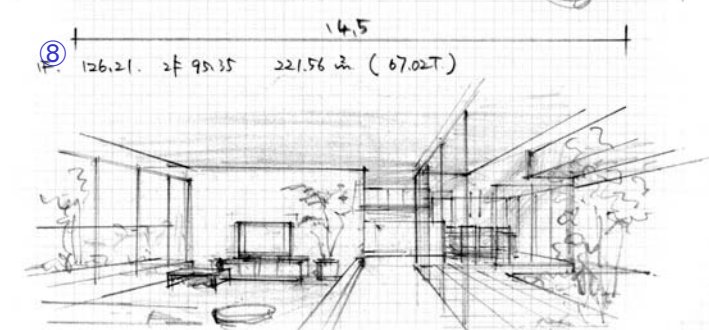
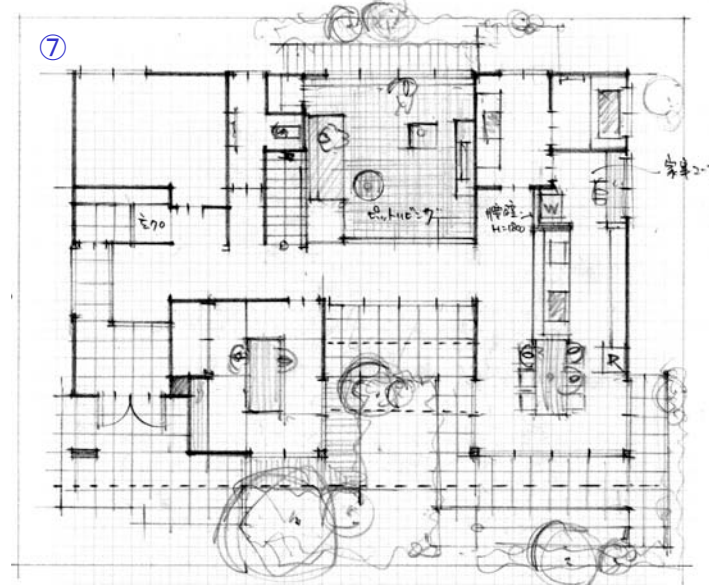
これは比較的丁寧に描いた事例。一方→

個人住宅のプラン提案時 (雛人形の飾り方検討)



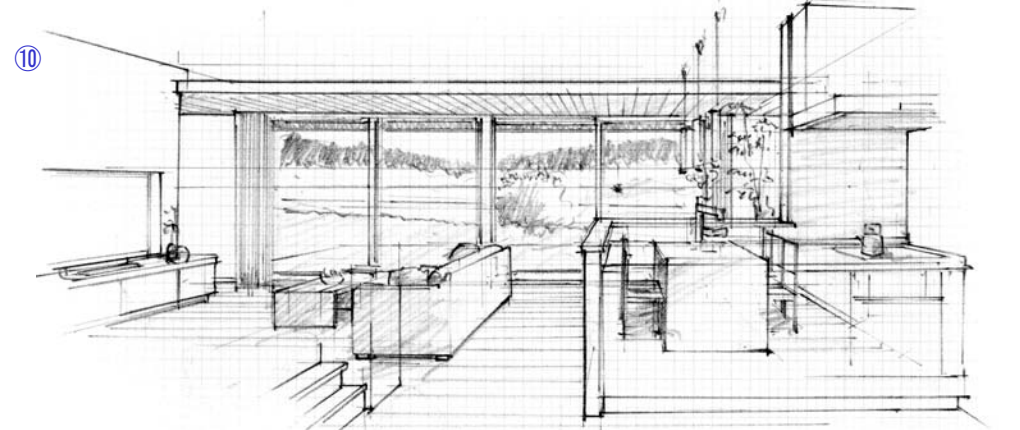
おまけ
「3階建て現場見学会虎の巻」用のアクセソメ

平面図とセットで描く内観パース
(展示場プラン)

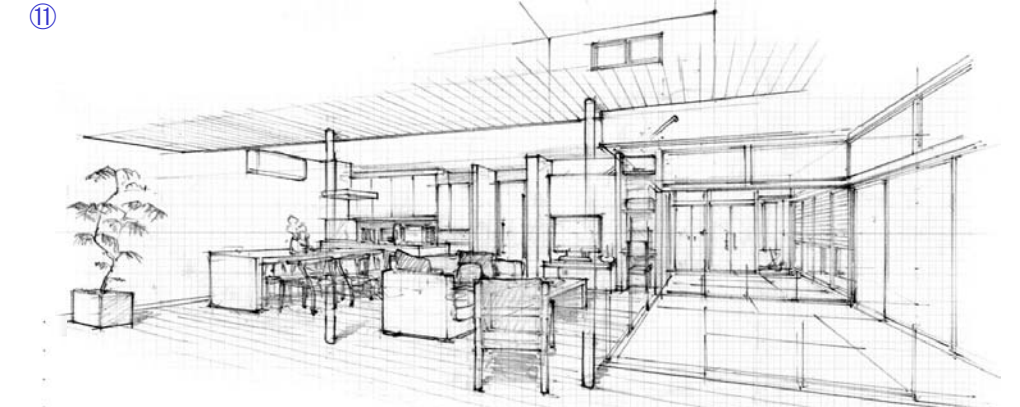


こちらは、平面図自体もかなりラフ。パースも同様だが・・・→

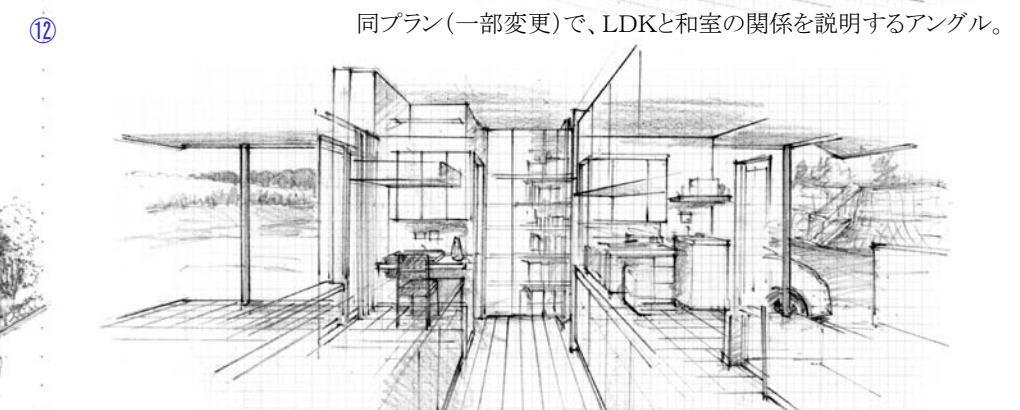
個人住宅のプラン提案時 (様々なアングル)



LDKの全体像と、南に広がる田園風景を表現するアングル。

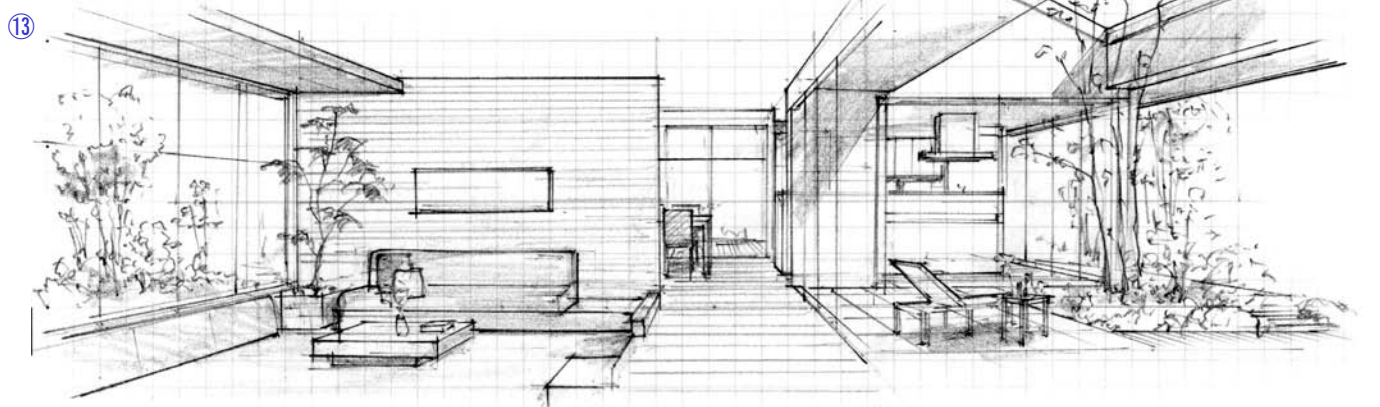


同プラン(一部変更)で、LDKと和室の関係を説明するアングル。



同プランで、DKの東・北側の水回り・家事コーナーを説明するアングル。

和泉展示場内観パース



プランを一部変更した後改めて、同じアングルのパースをもう少し丁寧に描き直した。



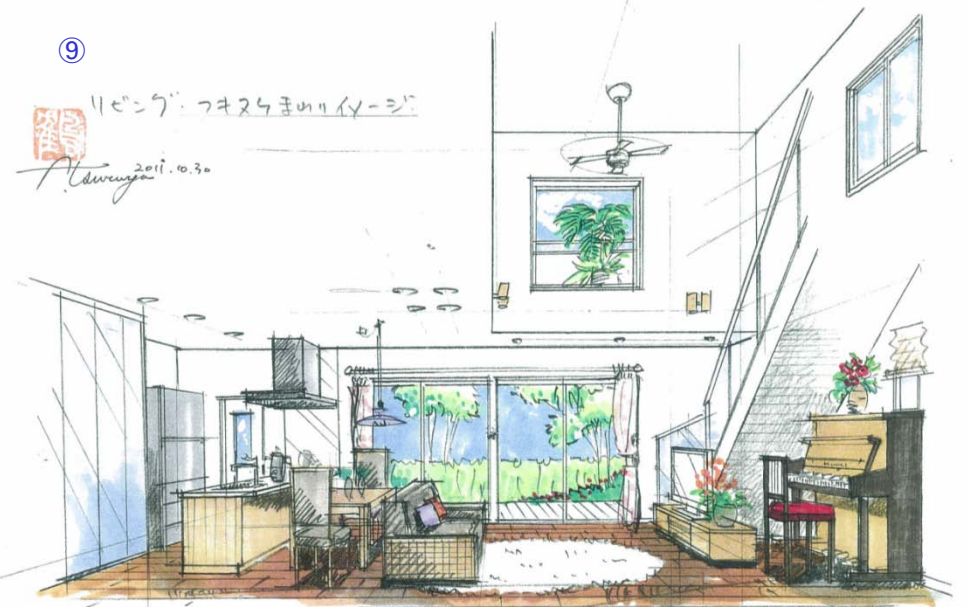
①

堺 新子さん



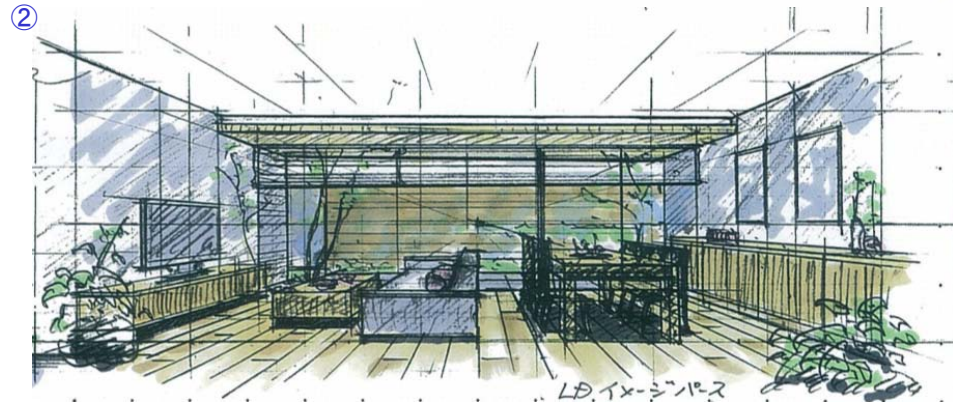
⑥

神奈川SW 高山さん



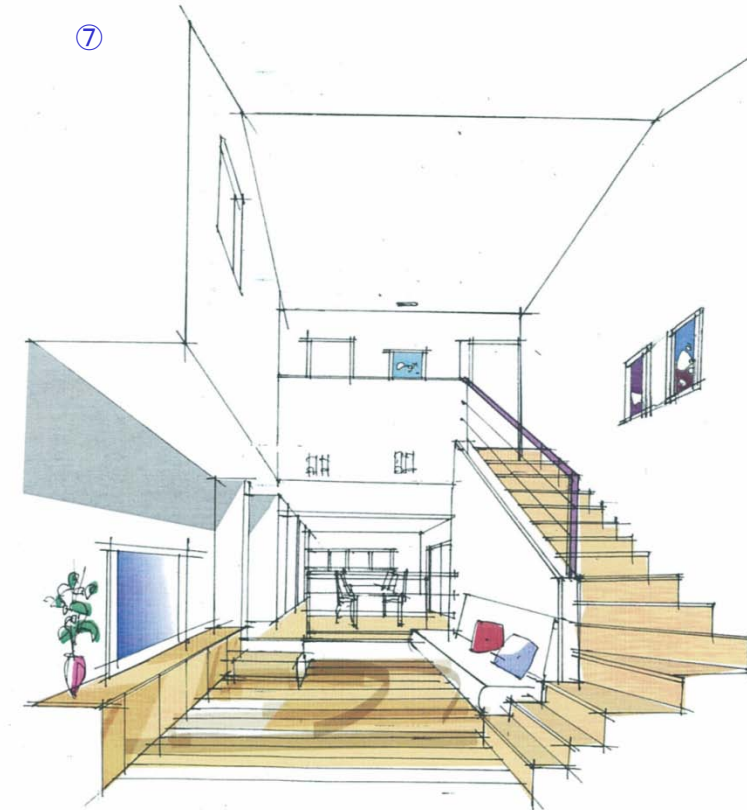
⑨

つくば 鶴谷さん



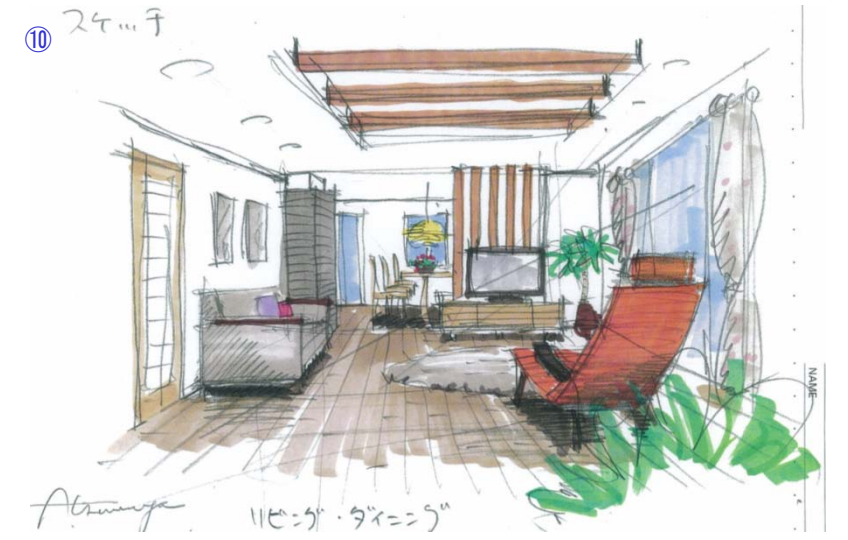
②

福知山 越智さん

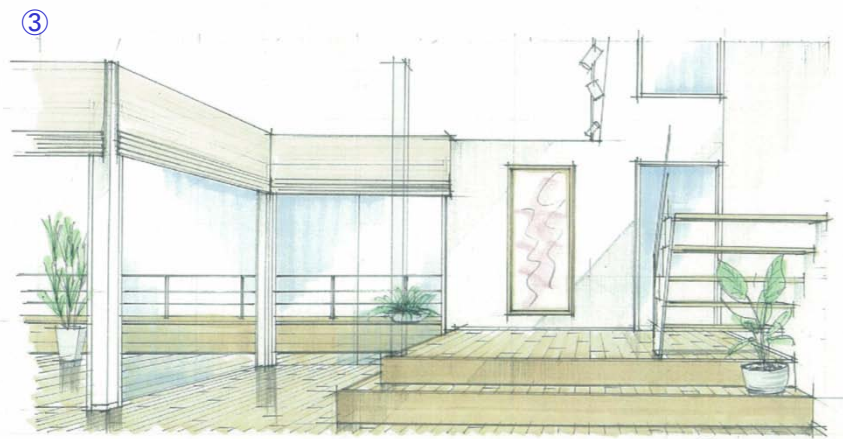


⑦

愛媛 中川さん



⑩



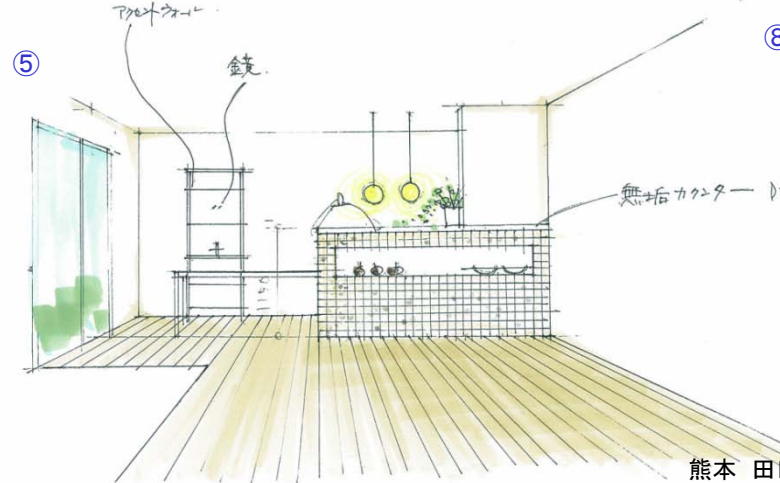
③

京都 月森さん



④

神戸 川邊さん



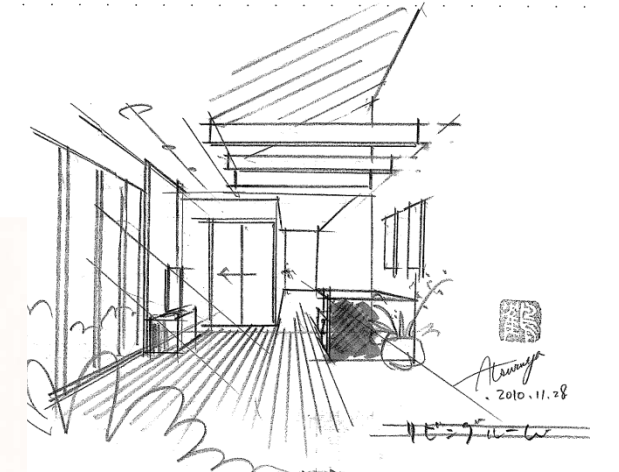
⑤

熊本 田口さん



⑧

千葉西 金子さん



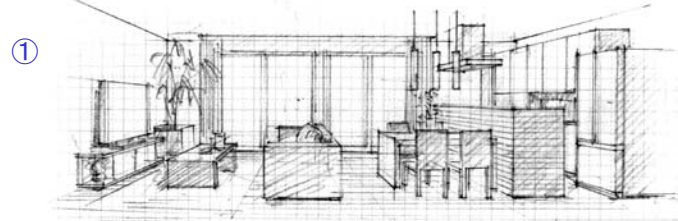
⑪

1 アングル「何を表現するか」最も大切な第一歩

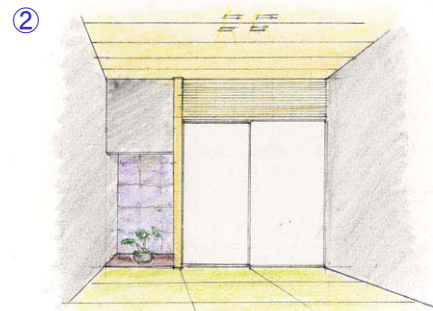
どのアングルで描くかと同時に、なぜそのアングルなのかを考えましょう。

①描きやすいアングル。

- ・表現したいものが面的。(和室の床の間の様子など)
- ・袋小路空間(3面壁面のリビングなど)
- ・シンプルに描いて、伝える。



① シンプルな南面LDKの様子を表現。 LDK 南面



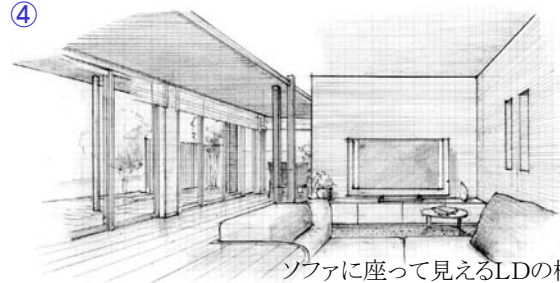
② 小さな床の間でも、見せ場として表現。

②多くの人が体験する見た目。ある空間に入った第一印象となるアングル。

- ・玄関ドアを開けた時の見た目。
- ・リビングに入った時の見た目。
- ・キッチンに立った時の見た目。



③ 玄関ドアを開けて見える様子。



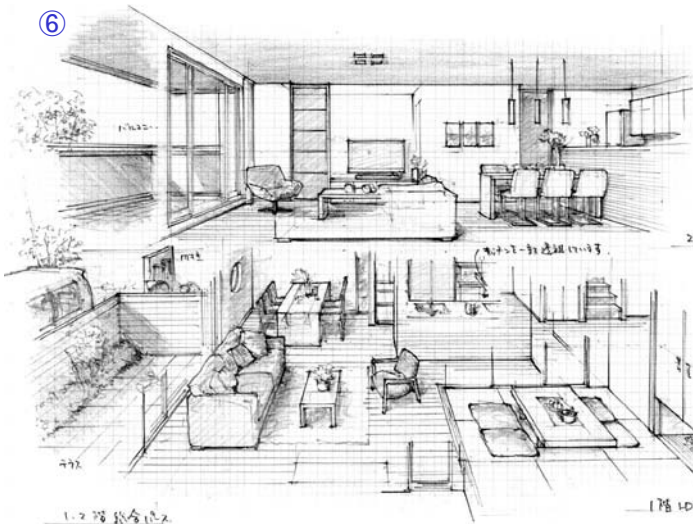
④ ソファに座って見えるLDの様子。



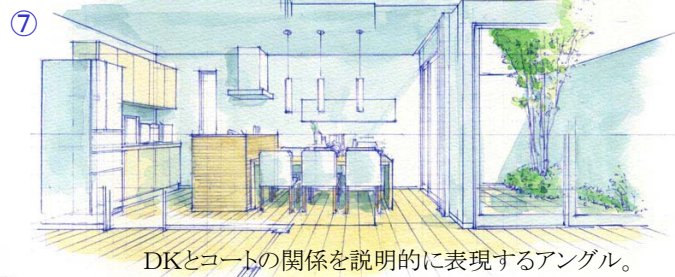
⑤ キッチンに立った人の視点で、DKを表現。

③説明しやすい。設計上のポイントが良く見える、隣接する空間との関係などが分かり易いアングル。

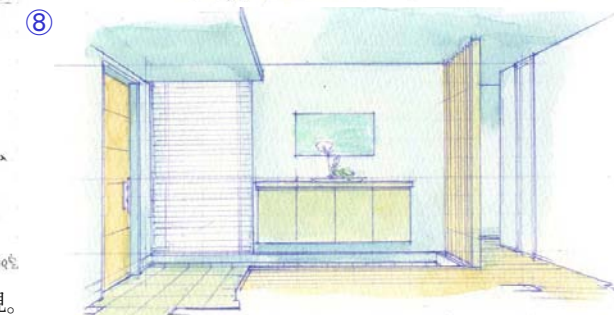
- ・吹抜け、



⑥ 二世帯住宅で、親世帯と子世帯のLDKの重なりの様子を表現。



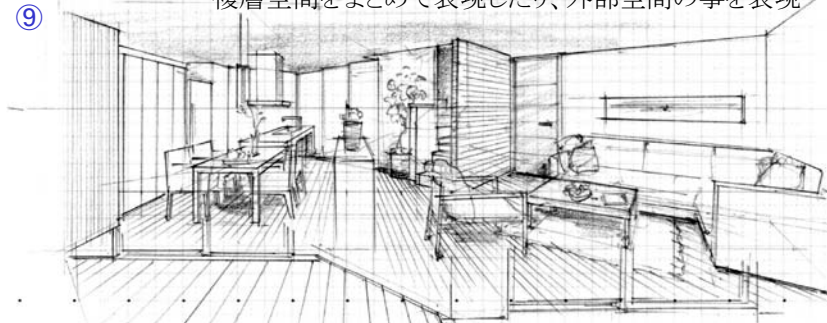
⑦ DKとコートとの関係を説明的に表現するアングル。



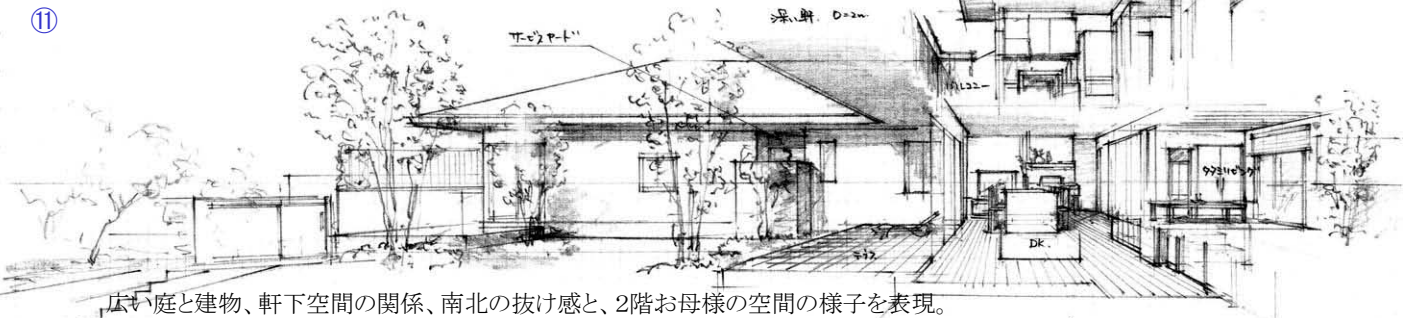
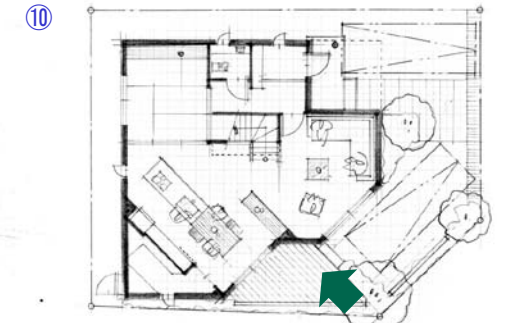
⑧ 下がり天井、採光窓、下駄箱、格子とその奥の廊下の関係を説明。

④驚き(インパクト)を優先。写真には撮れない、CGでも描けないアングル。

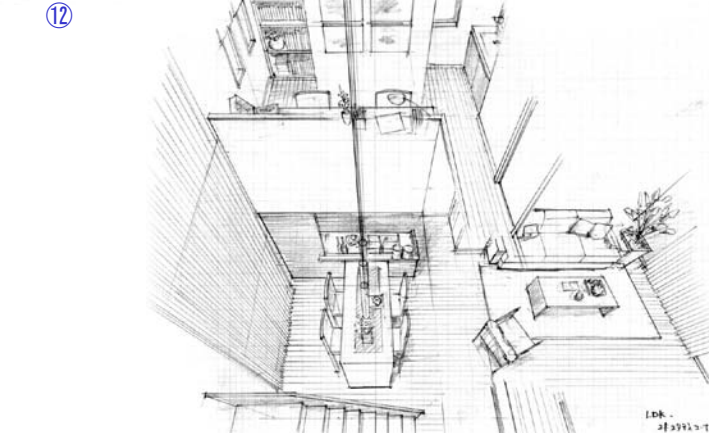
- ・複層空間をまとめて表現したり、外部空間の事を表現



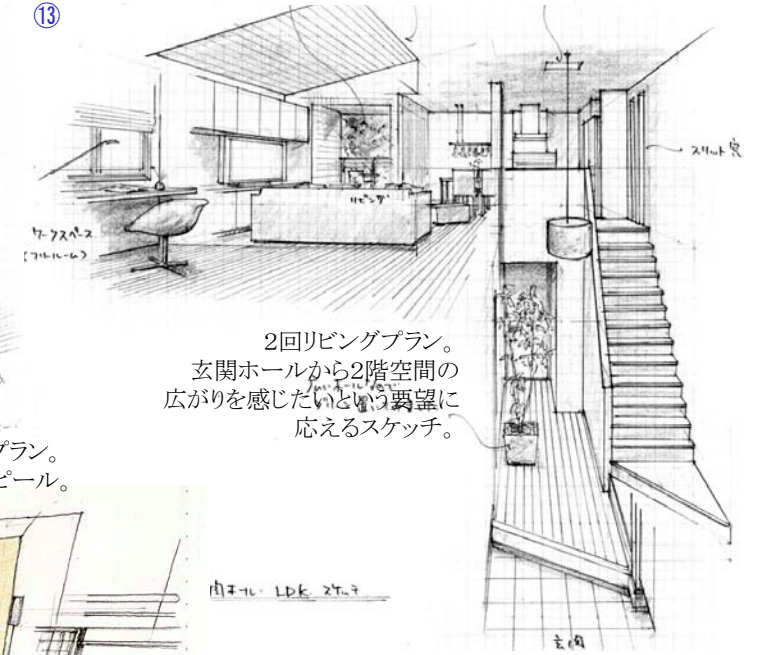
⑨ β2階の建売で、オブリックコーナーを活かしたプラン。あえて45度振った角度のパースとし、オブリックコーナーサッシを強調。



⑪ 広い庭と建物、軒下空間の関係、南北の抜け感と、2階お母様の空間の様子を表現。



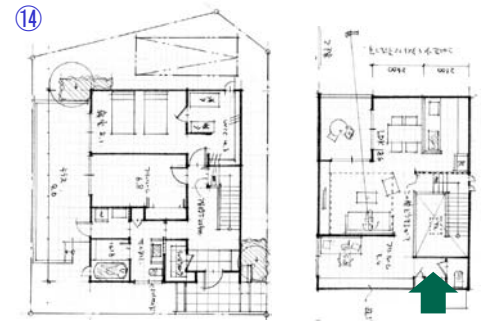
⑫ 売れ筋北側ダイニング吹抜けプラン。思い切って見おろしのアングルで、独特の空間性をアピール。



⑬ 2回リビングプラン。玄関ホールから2階空間の広がりを感じたいという要望に応えるスケッチ。



⑮ 1階ホール・テラス(ロジア)・らせん階段・2階リビングの関係を表現。



2 壁面・建具等の透視手法について

・なぜ透視表現をするのか考えましょう。

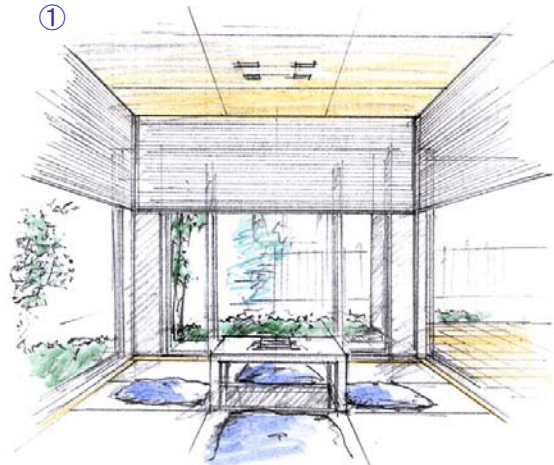
①目的、ねらい

- a 開口部(や壁面)を省略し、空間の開放感や外部の景色をより強調する。
- b 奥にあるものが隠れてしまう場合、手前にあるものを透視して、見せたいところを表現する。
- c 隣接する空間(内部・外部)との関係を説明する。

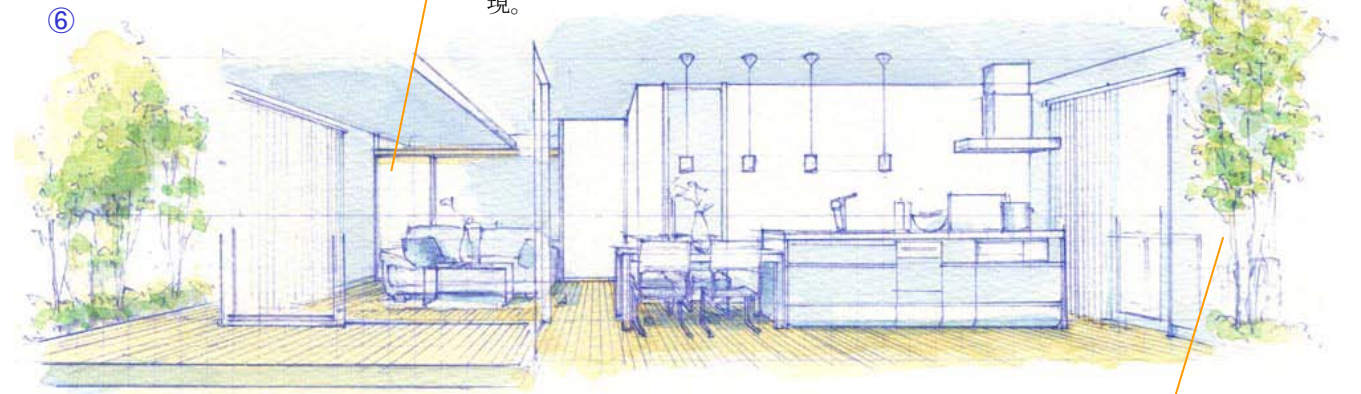
②透視表現のコツ

- a どのような透視表現をするのか考える。
- b-1 手前がメインで一部奥を表現する場合。
 - ・手前のもの(空間)の下描きが出来たら、どこまで奥の物を見せるか考える。
 - ・見せたい形で清書。
- b-2 奥がメインで、手前の透視するものをうっすら表現する場合。
 - ・奥の空間、手前の透視したいもの両方の下描きをする。
 - ・奥の清書をしたら、手前のものを狙いの透視具合で描く。

(視点の位置を考えれば) DKの手前の壁全体を透視していると言える。

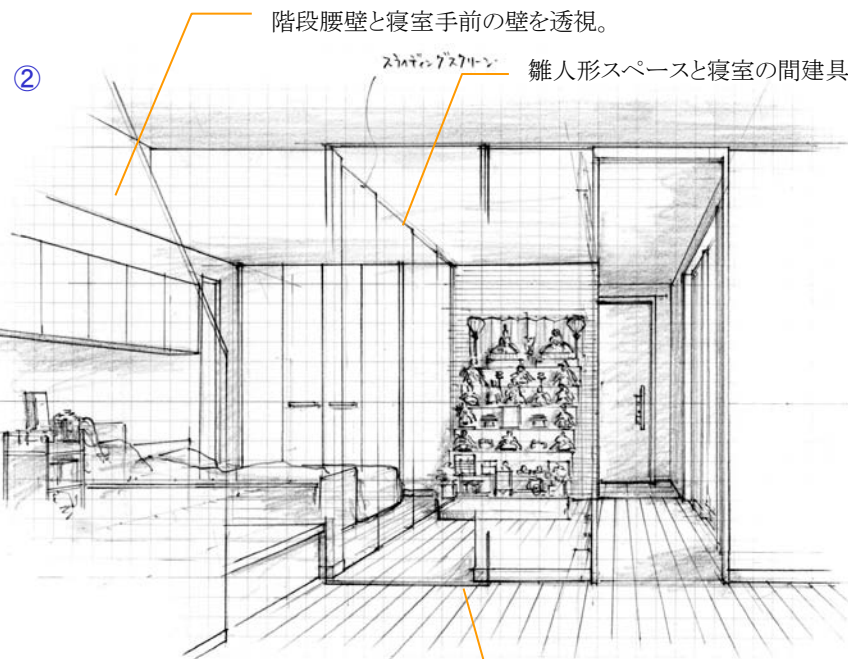


このパースでの表現している外部は、意図的な透視ではなく、ガラスが透明とすれば、普通に表現すべき内容。



リビングとデッキの間の壁(サッシ)を透視して、LDKとデッキの関係を表現。

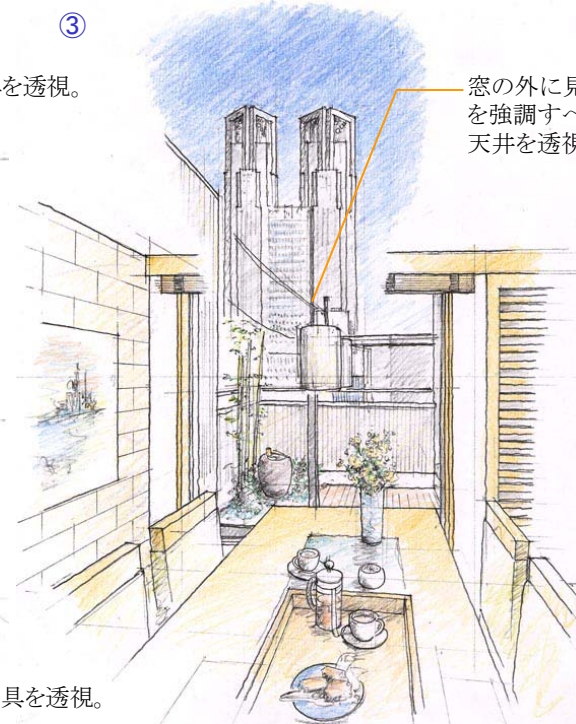
キッチン北側(右)の掃出し窓の開放感と、その先にある高木を表現。



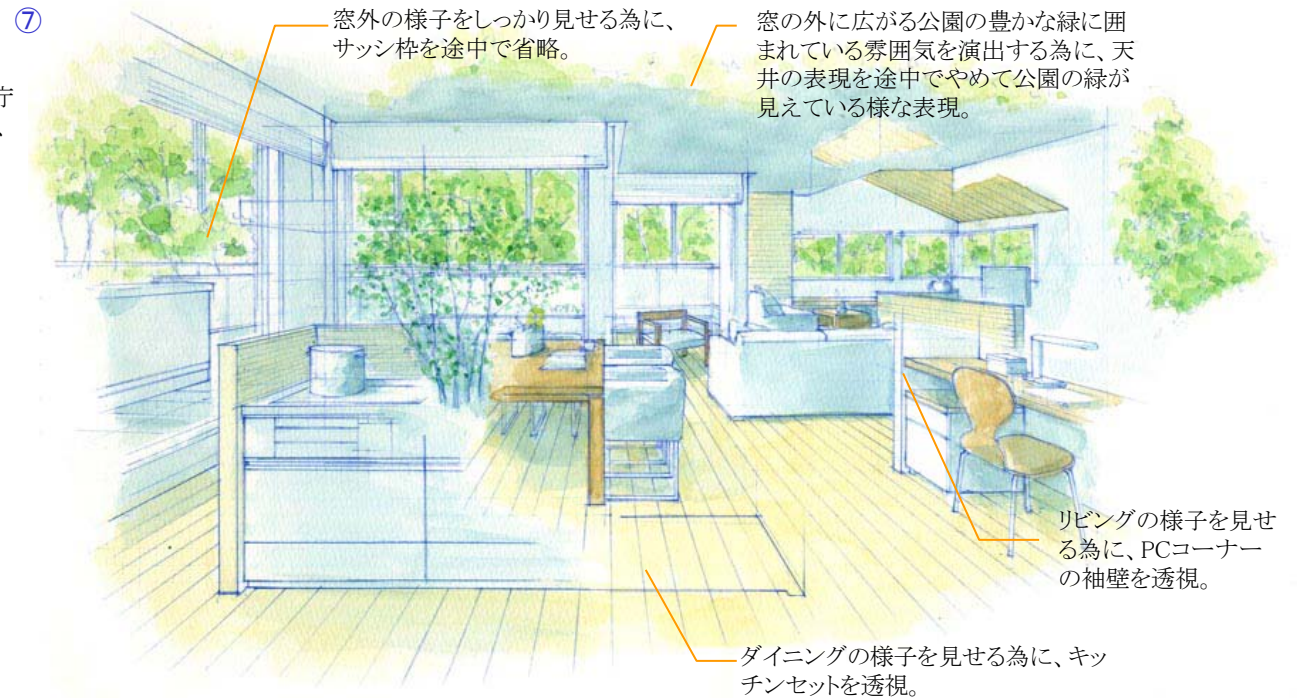
階段腰壁と寝室手前の壁を透視。

雑人形スペースと寝室の間建具を透視。

雑人形スペースの手前の壁と建具を透視。



窓の外に見える、東京都庁を強調すべく、サッシ、壁、天井を透視。

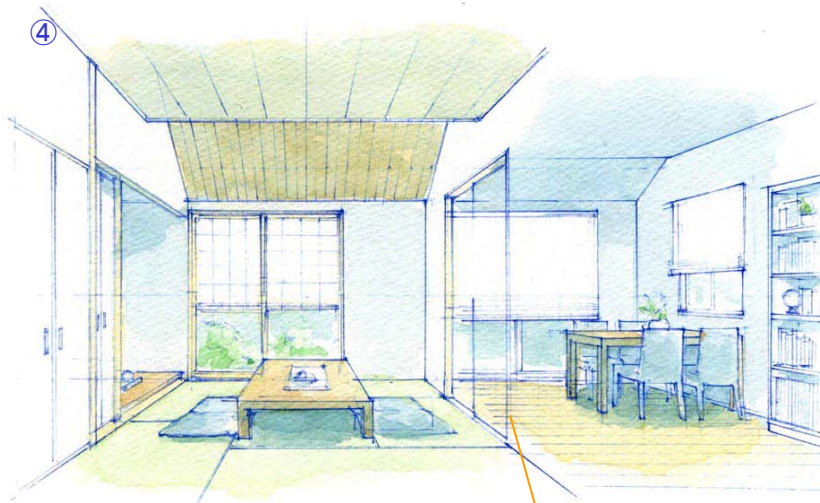


窓外の様子をしっかり見せる為に、サッシ枠を途中で省略。

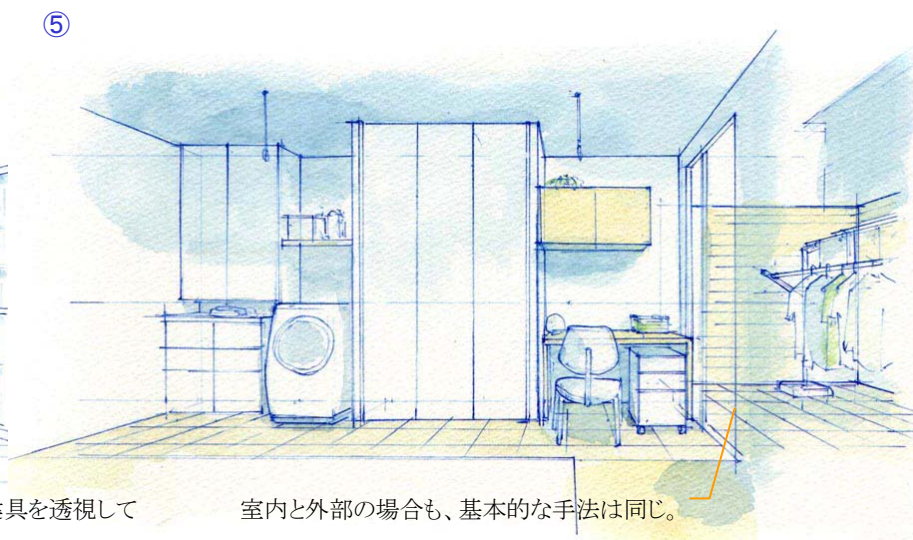
窓の外に広がる公園の豊かな緑に囲まれている雰囲気を演出する為に、天井の表現を途中でやめて公園の緑が見えている様な表現。

リビングの様子を見せる為に、PCコーナーの袖壁を透視。

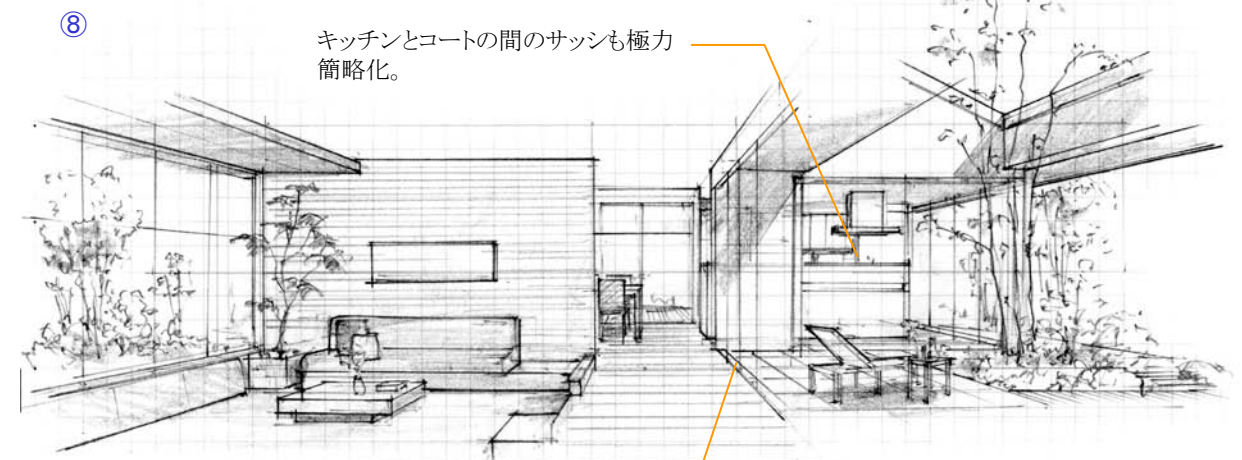
ダイニングの様子を見せる為に、キッチンセットを透視。



和室と洋室の間の壁、建具を透視して続き間の様子を表現。



室内と外部の場合も、基本的な手法は同じ。



キッチンとコート間のサッシも極力簡略化。

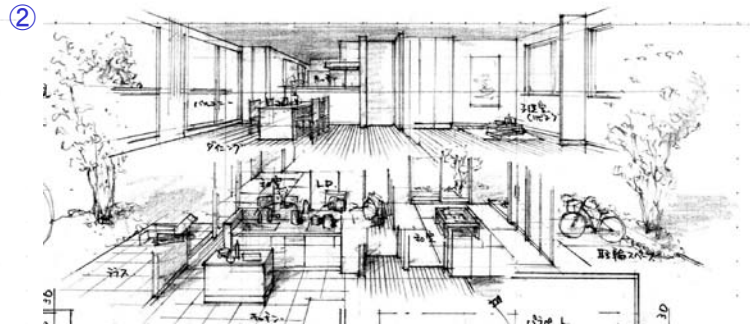
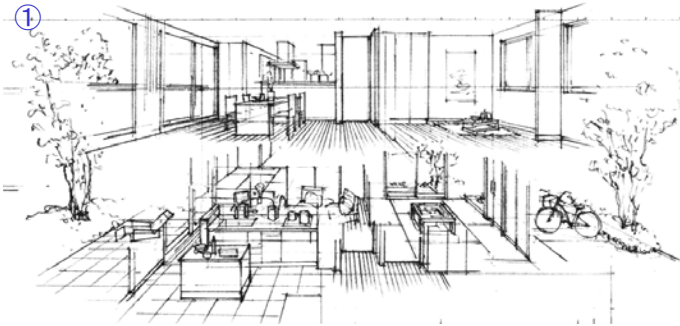
コートとの一体感を強調する為に、サッシ枠を単線で表現。(立体で描くと見えなくなる)

3 どの様に着彩(陰影の表現)すべきか

1 自分が描くパースではどの様に影をつけるべきか

①大原則

- ・陰影がしっかりついている方が、良く見える。
- ・濃淡のある表情豊かな画面
- ・陰影→光を感じる



②どこに陰影をつけるか

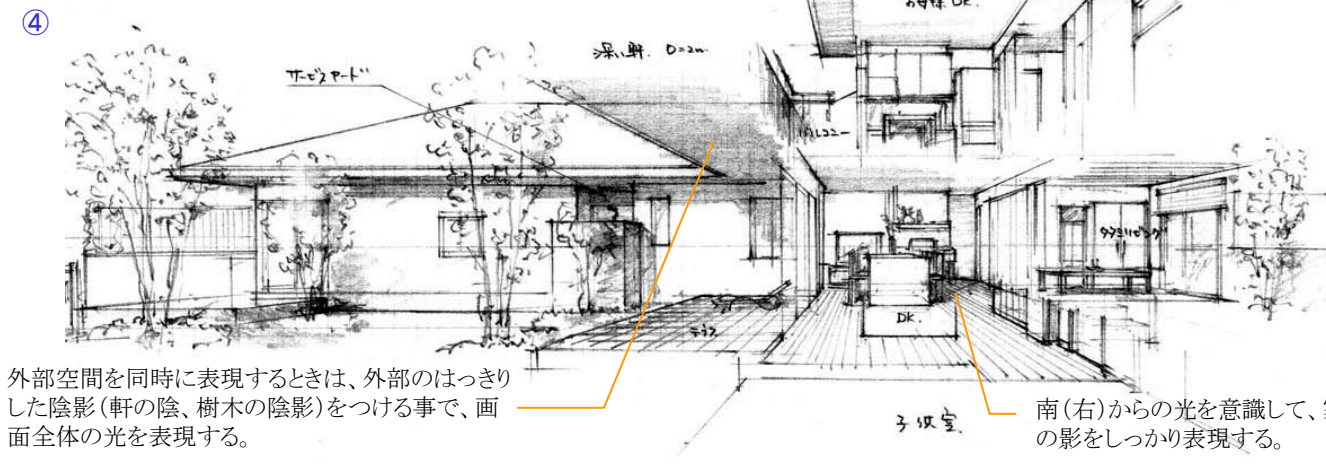
- ・完璧に現実に忠実である必要はない。(次ページ参照)
- ・シンプルな理論で、どこに陰影をつけるべきかを押さえておく。
- ・明らかに誤りでなければ、いくつかのポイントを押さえておけば充分。



例えば手描きパース研修のテキスト→
陰影をつけて立体感を表現する事を目的にしているが、これより少しだけ現実的な陰影のつけ方を目標にしたい。

③何で陰影をつけるか

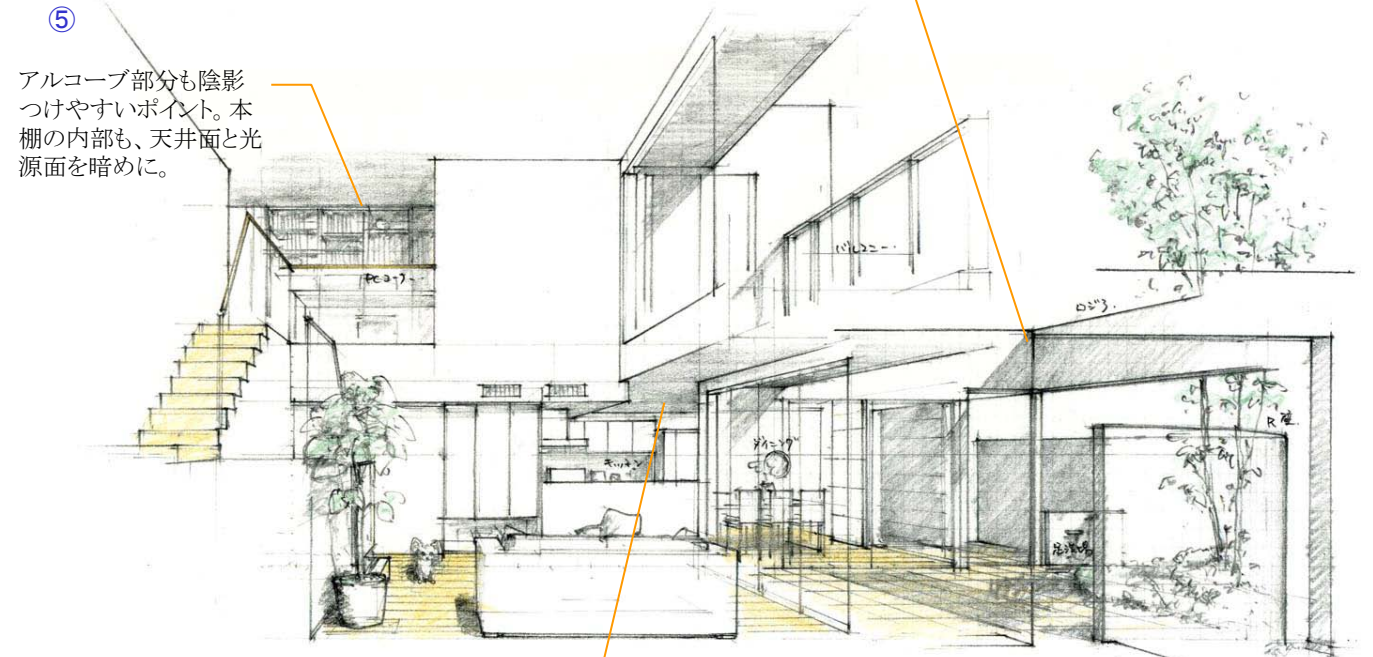
- ・理想は、広い面積に自由な濃度で着彩出来る、「水彩絵の具」だが・・・
- ・マーカー、色鉛筆等で着彩するなら、その画材で
- ・モノクロなら、鉛筆(太い芯でスピーディーに塗れるもの)でOK



外部空間を同時に表現するときは、外部のはっきりした陰影(軒の陰、樹木の陰影)をつける事で、画面全体の光を表現する。

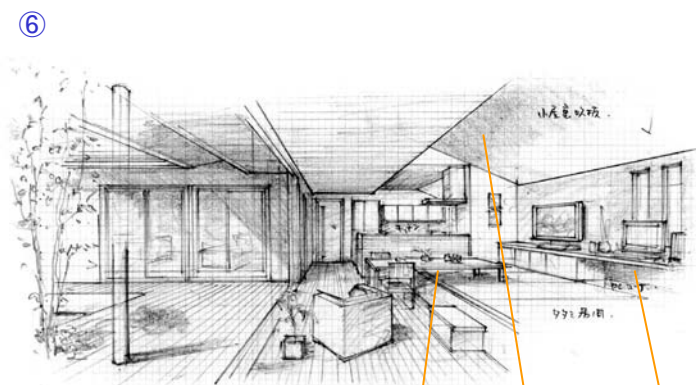
南(右)からの光を意識して、家具の影をしっかり表現する。

ロジアや、外構壁も、陰影をしっかりつけられるチャンスポイント。



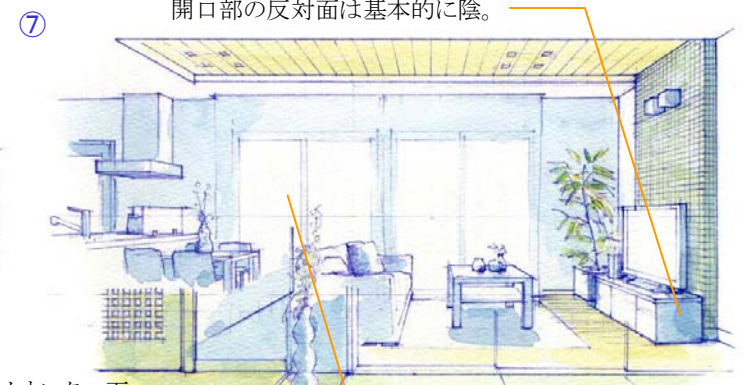
⑤ アルコーブ部分も陰影つけやすいポイント。本棚の内部も、天井面と光源面を暗めに。

本当は意外に明るいかもしれない1階の天井だが、暗くした方がめりはりはつく。



テーブル下は基本

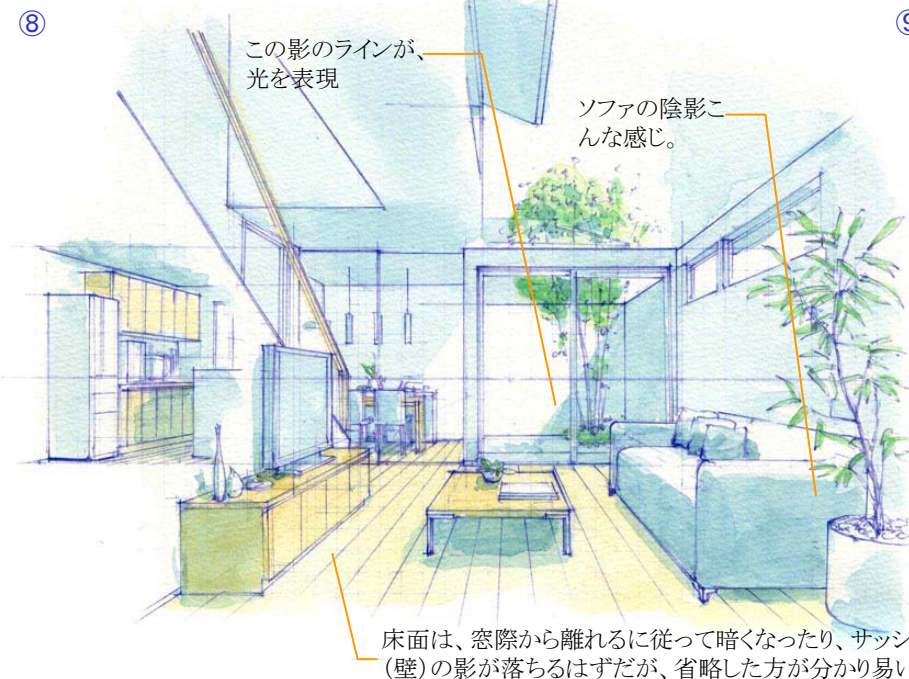
勾配天井も照明が、無ければ暗くなるポイント



開口部の反対面は基本的に陰。

カウンター下

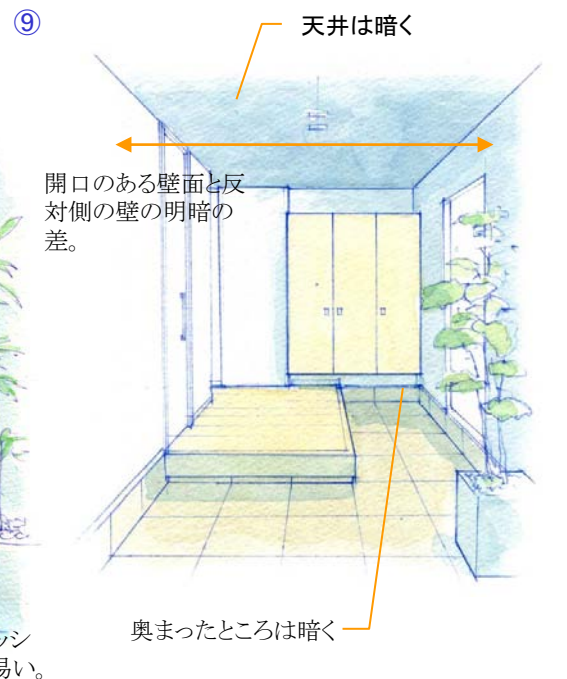
逆光風に、開口部をハイライトにして、外部の光が心地よく入ってきている感じを表現。



この影のラインが、光を表現

ソファの陰影こんな感じ。

床面は、窓際から離れるに従って暗くなったり、サッシ(壁)の影が落ちるはずだが、省略した方が分かり易い。



天井は暗く

開口のある壁面と反対側の壁の明暗の差。

奥まったところは暗く

3 どの様に着彩(陰影の表現)すべきか

2 写真を見て現実を知る

